

未来を見すえた町づくりを

- ☑ 池田高校が存続するための活動を推進します。
- ☑ 未来への投資の充実を訴え、子どもや子どもがいる家庭に向けた支援を推進します。
- ☑ 互いに助け合う地域社会づくりを推進します。

片山よしひろ 意見交流会の予定表

広く町民の考えや意見、声を集めています。この意見交流会で集まった考えや意見、声を元に、今後議会で訴える私たちの訴えや取組に反映していくことを目的としています。意見交流会は後援会加入の有無を問わずどなたでもご参加いただけます。後援会ウェブサイトや大通店舗で直接申込できます。

意見交流会とは違う方法で何か話したい、言いたいことがある方は下記の方法でもご連絡いただけます。

- 1) はがきなどを送る
〒083-0021 字西1条9丁目15-11 片山 よしひろ 行
- 2) Facebook メッセージを送る
- 3) 後援会ページからメッセージを送る
- 4) 公式 LINE からのお問い合わせ (@522ctnxg)
- 5) さくら書房大通店舗 (大通6丁目) 営業中にお越しいただく (14時30分まで)

- 大変申し訳ありませんが、下記の方法では承ることができません。
- ✕ さくら塾本店教室(西1条9丁目)に直接お越しいただくこと
 - ✕ お電話でのお問い合わせ

意見交流会の参加に年齢制限はありません。

片山よしひろ後援会入会のご案内

後援会ウェブサイトでは、片山が現在取り組んでいることや今後進めていくことなどの情報を公開しています。議員活動や活動報告等の広報は、議員報酬と後援会の年度会費(1月1日~12月31日)を元に行っています。

会員種別 正会員(年度会費 12,000 円) / 準会員(無料)

入会方法 3通りです。

- (1) 後援会ウェブサイトの加入フォームから
- (2) さくら書房大通店舗にて直接申込
- (3) 郵便はがきに下記内容を記載後、後援会事務所に送付
 - ①氏名 ②氏名ふりがな ③性別 ④会員種別
 - ⑤電話番号 ⑥郵便番号 ⑦住所

意見交流会7月の予定 (9:00~10:00)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

オレンジ枠の日にさくら書房大通店(大通6丁目)で実施。上記以外は公式サイトにて

現在の取組内容

- 進行中 △中断 ◇未着手 ◆着手しない
- 池田高校広報体制 ◇子ども夢基金
- 池田高校支援金の利活用 ◇トライアルショップ
- 町融資災害貸付 ◇ベンチの設置
- 児童生徒、登下校緊急時対応 ◇公園整備
- ◇通学路整備 ◇義務教育学校
- ◇飲食店とワイン ◇事業者支援
- ◇小中生徒・教科指導体制 ◇海外留学事業
- ◇移住定住(空家対策と連携) ◇高速ネット網
- ◇人事異動の柔軟化 △冬の除雪
- ◇おむつ定期便 △福祉灯油
- ◇児童手当の毎月支給 △準防火地域指定
- ◇街路樹の整備管理 ●利別通学バス運行
- ◇中小企業融資制度の充実 ●空き家対策
- ◇公契約条例 ...など46項目(6月末)

6月19日~27日は第2回定例会議が行われました。一般質問(片山)の内容です。

全部で5点10項目の質問を行いました。紙面の限り掲載しますが、できない分は後援会ウェブサイト、詳細は池田町議会の議会中継をご覧ください。一部は省略し、文末は「~だ」「~である」に書きかえています。

1点目 池田高校に向けた支援について(一部省略)

片山 (1) 入学報奨金の未執行分扱いについて。令和5年度予算で池田高校入学者1年生向け助成金として80名分400万円が計上されているが、実際は予算の一部が使われていない。この予算は池田高校を支援することが目的のひとつであり、今年度の生徒に使えなかったのであれば次年度の生徒に向けて使うことで、その目的が達成できるものとする。高校を失った町は急速に衰退する。経済的な多大な影響はさることながら、将来に渡り若い世代の減少につながる。将来のためにできることはすぐにでも、できる限り様々な取組が必要な状況だ。未執行予算は補正予算で組み替え前向きな予算にし、次年度の生徒獲得に向けた PR 活動等に使えるようにするなど、池田高校の存続を後押しできないか。これについての見解を伺う。(2) 池田高校の PR 活動について。地域の小中学生や保護者の方々を含め町民からは池田高校でどんな学びができるのか分からないという声がある。これから高校入試を迎える生徒やその保護者、あるいは地域の方々に池田高校の魅力を中心に伝えられておらず、進学先の高校としては候補に挙がりにくい状態ではないか。教育振興会に含まれる町内小中学校や豊頃町、浦幌町をはじめ近隣市町村の小中学生やその保護者に向けて、学校を通じて定期的に直接チラシを届けたり、学校紹介に伺ったりするなどして池田高校の魅力伝えるPR活動をすぐにでも、より積極的に進めていく必要があると考える。まずは定期的なチラシやパンフレットの作成と配付、またはその支援から、具体的な取組をすぐにでも始められないか。見解を伺う。(3) コーディネーター設置等、高校職員の負担軽減策について。池田高校では探究と参画の授業が展開されており、3年間の学びの中で「自分が何者であるのか、何に興味があり何ができるのか、これからどのように生きていくのか」を深められる学校である。この授業を展開するため多くの事業者や人が池田高校とのつながりを持つが、池田高校の先生方は多忙を極めている。そこで、池田高校と町内外の事業者や町民、池田町と橋渡しを行うコーディネーターを設置することが、先生方の負担軽減や授業の質の向上につながるかと考える。例えば(中略)など、外部人材を活用した取組を実行できないか。見解を伺う。(4) 池田高校生に対する補助金の活用方法について。現在の支援の在り方は、全体的に家庭の負担軽減策が主である。周辺町村と足並みを揃えるという面では良いが、池田町として特色のあるものにはなっていない。この補助金の使い方を、総合学科という特徴に合う形で生徒のスキルアップに直接つながるような支援にも視点を定めて補助できないか。例えば地域の事業者や町民の助力を受けるときの必要経費や謝礼の支払、生徒が行う授業内外で行われる探究活動への活用などである。特に現在町内外の事業者の助力を得て行われている授業はボランティアの要素が大変強く、池田高校で行われている探究と参画の授業の質をより高めるには改善が必要である。見解を伺う。(5) 利別地区と池田高校を結ぶ通学バスの運行について。昨年度実行された JR 池田駅から池田高校を結ぶバスは大変良い結果が出ていると聞き及んでいる。この通学バスについて(中略)利別地区の生徒も対象にできないか。具体的には利別地区にバス停留所を設け「利別地区から池田駅を経由して、池田高校へたどり着く」通学バスを運行することで。町外から通う生徒への支援の充実が重要であることは承知しているが、町内から池田高校に進学する生徒を増やす努力もまた必要であるかと考える。見解を伺う。

町長 少子化は全国的な課題であり、広大で地域分散型の北海道では少子化による公立高校の統廃合や学級減少が進み、地域に大きな影響を与えている。池田高校においても同様な状況である。本年3月に示された北海道教育委員会の「これからの高校づくりに関する指針・改訂版」では、少子化の進展により小規模校化が進む中、「地域とつながる高校づくり」として学校と地域の協働による地域人材の育成が重要とし、地域を学びの場とした教育活動を推進するとされたところである。本町としてはまさに総合学科の特色をいかした魅力ある教育活動への支援が必要であり、(後略)。(1) 議員指摘の内容について、入学する生徒数は年度によって変わるので、減額分を活用すると



「片山よしひろ後援会」事務所
〒083-0021 北海道中川郡池田町字西1条9丁目15番地の11
TEL 090-6265-3528 <https://ktym.info/>

池田町議会議員

片山 よしひろ

公式サイトでは後援会会員の方が自由に意見等の交流ができる掲示板をご利用いただけます。公式 LINE (@522ctnxg) や、Facebook メッセージ、メール (yoshimade@yahoo.co.jp) でもお問い合わせ頂けます。お電話でのお問い合わせは承れません。

いう考えではなく、必要な活動にはしっかりと補正予算や当初予算で議会に示しながら取り組む。(2) 池田高校のPR活動については、広報池田に置いて年に2回特集を組み池田高校の取組内容や魅力について紹介している。また教育振興会では広報事業として学校案内やポスター、リーフレットを作成し、管内の中学校に郵送しているほか、豊頃町と浦幌町の中学校には3年生の生徒数分の学校案内を直接持参しPRに努めている。また教頭先生や進路指導の先生方などが管内の中学校を訪問し、同様に学校案内を持参し池田高校の魅力を伝えながらPRに努めている。このほか学校だよりは発行に合わせて管内の中学校に郵送している。今年度も本町や振興会の取組を継続しながら、さらに充実した広報活動に取り組む。池田高校の学校だよりなどの広報物については、支援の一環として公区配付で町内全戸に配付し、多くの方に池田高校の魅力を知らえるように取り組む。(3) コーディネーターの設置や学校職員の負担軽減については、池田高校では探究と参画の授業に力を入れ「高校生議会」や「地域人インタビュー」「本町のシラカバを使った商品開発」「地域の観光資源探求」などを実践し、地域の人や講師の方などにつながることで生徒自身の進路に向き合い、将来を考える取組を行っている。担当している先生方は計画や準備に相当な時間を要していると聞いており、本町としてはコーディネーターを配置することで先生方の負担軽減や授業の質の向上にもつながるものと考えている。北海道教育委員会が実施している「北海道 CLASS プロジェクト・地域コーディネーターミーティング」においても高校と地域が協働する体制構築が重要で、その要となるのが両者をつなぐ「地域コーディネーター」の存在としている。十勝管内を含め道内でも自治体独自で配置したり、自治体職員が学校に勤務してコーディネート機能を担ったりする事例が増えてきている。地域コーディネーターの配置については池田高校と配置の必要性や、実施体制などを協議していく。

(4) 補助金の活用方法について、本町では教育振興会への総合学科支援補助金のほか、保護者への経済的な支援として1年次での入学報奨金や2年次での就学奨励金、下宿助成を行っている。議員指摘の生徒のスキルアップにつながる支援について、池田高校では探究と参画の授業に力を入れていることもあり、地域の方々や専門的知識を持った講師の方などに授業に参画頂いている。本町としてもこのような授業は生徒の進路や将来に直接的につながるものと考えており、より充実した教育内容となるよう支援する必要があると考えている。現在、町担当者と池田高校の先生方で高校の魅力化に向け、先ほど述べた地域コーディネーターや講師謝礼などを含め、どのような支援が必要か継続的に協議を重ねているので、考えがまとまった段階で議会に示す。(5) 利別地区と池田高校を結ぶ通学バスについて、(中略)検討した結果、通学バスではなく利別及び池田市街地を循環するコミュニティバスで対応することが望ましいと判断し、来年10月からのダイヤ改正に合わせ、朝の1便について池田高校まで路線を伸ばす見直しを行うため、今月下旬開催予定の池田町地域公共交通会議に諮ることとしている。

以上、答弁となるが、大手民間コンサルティング会社の研究レポートで、島根県の高校を例に「高校の存続は、地域の存続に直結する」との危機意識のもと、(中略)探究と参画の授業の充実を図る池田高校は、総合学科の特色を生かした地域との連携に取り組んでおり、それが魅力ある高校づくりにつながると考えている。その魅力づくりに本町も支援しながら充実した教育内容となるよう、池田高校と協議を続けながら支援内容をまとめていく。

片山 生徒自身の進路に向き合い将来を考える取組が池田高校の強みであり、資金面、人材面の支援の充実が重要で、これは池田町の池田高校に向けた特色ある支援でもあると考える。コーディネーターの配置について、北海道教育委員会が実証実験を行うほど重視するコーディネーター配置に、池田高校が配置を不要であるという消極的な姿勢はないと推察する。池田高校が拒否しない限り、積極的に配置する姿勢だと受け止めて良いか。

町長 具体的な配置の体制や、専属または職員派遣をする場合の体制について具体的な協議を進めており、前提に協議が進んでいると理解いただきたい。

2点目 継続的事業の継続性を担保する取組について(概要)

片山 急な方針変更により継続的事業が休止になり、契約の継続を断念した事業者がおられる。これが繰り返されれば池田町で事業を行おうとする人がいなくなるのが危惧される。①議決された事業は年度当初から正しく遂行すること。②安易に事業をやめることなく、事業の継続性を維持すること。見解を伺う。

町長 町としては契約内容の調整後事業の継続意思があったが、説明の際に丁寧さが不足し、互いの認識に齟齬が生まれたと思われ契約締結に至らなかった。事業の見直しが必要となることも否定できないので、その場合は様々な影響を考慮し可能な限り、早期検討と影響を受ける事業者への丁寧な説明を行い理解していただき進めていきたい。

片山 3月の議決を受けて4月開始する事業で4月に休止を通知するとはあまりにも遅すぎる。せめて3カ月前には通知を。他にも類似の(休止中、休止予定)の事業はあるのか。

町長 今回は非常にレアなケースであり、他にはあまりないものと認識している。原則としては予算計上前に見直すべきであると認識している。

3点目 防災情報や避難行動など災害対策について(概要)

片山 (1)災害時にペットと一緒に避難する避難者の受け入れ態勢は。

町長 本町各避難所の屋外にはペットの係留場所を事前に確保できるが、屋内では十分な確保が難しい。自動車を所有している場合は車中避難をお願いすることも必要と考える。避難体制について、飼い主としての責務や町の支援体制の確立を踏まえたうえで、住民周知と共に受け入れ態勢については他の自治体の取組状況を参考に検討していく。

片山 (2)質問:オンラインハザードマップの整備を。

町長 国土交通省のハザードマップポータルサイトを活用し、町公式サイト内に情報を組み込んで表示するよう修正した。町単独での整備には構築・運用に一定の費用が発生するので既存のシステムを活用していく。今後も防災情報をわかりやすく発信できるよう努める。

4点目 災害貸付資金の出口戦略について(概要)

片山 コロナの影響に続き物価高が進行し事業者の経営環境は厳しさを増す一方であり、災害貸付資金の当初予定での返済継続は大きすぎる負担を事業者にかける。融資期間の延長や、別枠で運転資金などへの円滑な移行を行うこと、保証協会の保証料は一部補助するなど、町として最後まで事業者を支援するという姿勢を示せないか。

町長 事業継続の観点から一定程度の効果を見込めるとは考えるが、ほぼすべての融資案件について償還が始まっており場合によっては債務者区分の低下など事業者のデメリットが発生する恐れがあり、現在需要は未知数である。今後も需要を見極めながら施策を検討していきたい。

片山 全国的に多くの中小企業がコロナ融資を受け、現在は元金返済開始のピークを迎えている。国は借換補償制度を開始しており、借換えによる資金繰りの安定化が可能になっている。町についても事業者の資金繰りの安定化を可能にする手段の用意を。需要が少なくても最後まで支援するという姿勢はあるか。

町長 検討する。

5点目 空き家対策について(概要)

片山 国の「空家等対策の推進に関する特別措置法の一部改正法」を受けて、池田町は今後の空家対策についてどのように考えるか。

町長 法律に従って手続きを進めていきたい。特定空家等を増加させないため、引き続き法令や各種補助制度の広報、周知等に努め空き家などの解消を図っていく。

片山 早期の助言や指導はもちろん、行政代執行についても積極的に行っていく必要があると考える。積極的に行うことについてどう考えるか。

町長 基本姿勢としてはなるべく早く有効な手立てを講じていくことが大前提。助言、指導...と順をおったうえで、最終的には固定資産税の軽減解除や行政代執行も避けては通れないと、自治体としても検討取組申していく必要があると考えている。

意見・考え、お聞かせください。

今、特に知りたい一覧です。

- (1) 災害時、ペットとの避難
- (2) 大通の街路樹、ベンチ設置
- (3) 義務教育学校
- (4) 子育て環境
- (5) 空地や空家の対策

...について

どこまでできるかは分かりませんが9月定例会に向けて、池田高校の支援関連、小中学校関連、災害融資関連、森林環境譲与税、森づくり、孤独死、困窮対策、子育て支援、事業環境関連等の取組を進めています。



池田町議会議員
片山 よしひろ
公式サイトでは後援会会員の方が自由に意見等の交流ができる掲示板をご利用いただけます。公式 LINE (@522ctnxg) や、Facebook メッセージ、メール (yoshimade@yahoo.co.jp) でもお問い合わせ頂けます。お電話でのお問い合わせは承れません。



「片山よしひろ後援会」事務所
〒083-0021 北海道中川郡池田町字西1条9丁目15番地の11
TEL 090-6265-3528 <https://ktym.info/>